

皆さん こんにちは。

本日は、師走の大変お忙しいところ、日頃お世話になっております報道機関から、朝日新聞秋田総局長 松村 北斗 様、毎日新聞秋田支局長 佐藤 岳幸様、秋田魁新報社 報道センター 運動部長の 平野 順様 を御来賓にお迎えし、今年度第2回目の評議員・理事会を開催できますことは、誠にありがたく、心より厚く御礼を申し上げます。

また、加盟校各校の評議員、並びに、理事、監督等の指導者の皆様には、秋田県の高校野球の発展、並びに高校球児の健全育成に、日々、御尽力いただいておりますことに、深く感謝を申し上げます。

さて、秋田県の高校野球ですが、今年度は大きな改革の年でありました。

少子化に伴い、高等学校の統廃合が進む中、全県の野球部員も減少しております。これらの影響から、県北、中央、県南の各地区の加盟校に不均衡が生じ、県大会出場枠の問題などが発生したことから、今年度からは春と秋の地区大会を廃止し、春と秋、2回の県大会と、夏の甲子園予選が主たる大会となりました。大会期間のことや運営上の諸問題などを検証の上、課題をまとめ、来年度に向けて改善を進めて参ります。

また、全国の高校野球におきましては、御存知のように夏の甲子園大会において、宮城県代表の仙台育英学園高校が初優勝を飾り、初めて深紅の大優勝旗が、白河の関を越えて、東北の地にもたらされました。同じ東北地区から日本一のチームが出たということで、秋田県の高校球児の意識も変わったのではないのでしょうか。優勝監督の須江航さんのインタビューがとても感動的で、胸を打たれた人も多かったものと思います。

秋の大会におきましては、東北大会に能代松陽高校、由利高校、明桜高校が出場しましたが、能代松陽高校は優勝した仙台育英に準決勝で敗れベスト4、由利高校は初出場ながら準々決勝まで進みベスト8、明桜高校は残念ながら初戦で敗退してしまいましたが、それぞれの選手が十分に力を発揮し、健闘したと思います。

来春の選抜大会には、大会成績や戦いぶり、チームの特徴などが評価されて選抜される一般枠というのがありますが、来春の選抜大会は95回の記念大会でありまして、東北地区からは1校増えて3校選抜されることになっています。

また、戦績のほか、地域貢献や文武両道、他の部活動の活躍など、特色ある教育活動が評価されて選抜される「21世紀枠」というのがあります。先に開かれました常任理事会におきまして、この「21世紀枠」候補校に由利高校を秋田県高野連から推薦しております。本県から由利工業高校以来、5年ぶりの選抜出場校が出ることを念願しています。

このような状況の中、残念な話題もありました。新聞等で報道された2件の不祥事件のほか、多数の不祥事件が発生しております。異例の多さに2度、加盟校全体に注意文書を発出いたしました。シーズンオフを迎え、ややもすると目標を見失いがちになりますが、どうかこれ以上の不祥事件の発生を防止していただけますよう強くお願いいたします。そして万が一にも不祥事件が発生した場合には、真相究明よりもまず、高野連事務局、理事長まで第一報をいただきますようお願いいたします。この報告が遅れますと、また処分の内容が重くなりますので、学校や生徒、先生方自身をお守りする為にも、よろしく願いいたします。

高校野球の目的は、野球を通じて社会に有為な人材を育てることにあります。先生方におかれましては、野球部員の指導に骨が折れることも多々あるうかと思いますが、今後ともよろしく願いいたします。

最後になりましたが、御出席いただきました皆様のますますのご健勝と、各加盟校の野球部員が、甲子園、あるいは日本一を目指し、しのぎを削る中で、大きく成長してくれることを念願いたしまして、開会の挨拶と致します。本日はどうかよろしく願いいたします。